

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜各務野高等学校 学校番号 13

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>強くたくましい心身や豊かな人間性と社会性を育むとともに、社会の要請に対応した高い専門性を有する人材の育成を目指し、一人一人が自己実現を果たすことのできる基礎的な能力と態度の育成に努める。</p> <p>1 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。          (1)ビジネスや経済の諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展を図る総合的な能力と実践的な態度の育成          (2)情報社会で活躍できる創造的な能力と実践的態度の育成          (3)人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の増進に寄与できる創造的な能力と実践的な態度の育成</p> <p>2 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。          3 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送られるよう心身の健全な発達に努める。</p>		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』          グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>・ビジネス科          ビジネスマナーを身に付け、商業の各分野について高度な知識と技術を身に付けるとともに、想像力豊かでビジネスの創造と発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる生徒          ・情報科          デジタルクリエイターとして、Society5.0 で実現する新たな社会において情報を活用し、情報に対する新たな価値を創造することができる生徒          ・福祉科          福祉に関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を身に付け、より良い福祉社会をめざすため主体的かつ協動的に取り組むことができる生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』          カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>・ビジネス科          「礼節と礼儀を大切にされた商業人教育」と「商業の専門性を深める探究的な学び」を両輪として、経済社会で活躍できるように商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学びの推進          ・情報科          情報産業に関する事象について、主体的に課題を発見し、ICT機器を活用しながら科学的で論理的な方法で創造的に解決していくための探究的な学びの推進          ・福祉科          実践的・体験的な学習活動を行うことを通して学ぶ意欲を高め、福祉に関する課題を発見し、職業人として求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する学びの推進</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』          アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>・ビジネス科          商業の諸活動に興味・関心があり資格取得に意欲的に取り組む姿勢をもつとともに、経済社会に積極的に参画しリードできる人材になりたいと考えている生徒          ・情報科          情報科の学習 (プログラミング・映像制作・イラスト制作・アプリ開発・Web デザイン・ネット配信等) に深い興味・関心があり、その知識や技術の習得に努力を惜しまない生徒          ・福祉科          福祉に関して興味と関心をもち、将来の職業として福祉に関わる職業を希望している生徒          ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に主体的に活動し、自己の成長や仲間とのつながりを大切にしようとする生徒</p>

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇教務部 (学習指導)</p>	
<p>4 現状の分析</p>	<p>生徒アンケートの結果「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。」の項目が、昨年度から5.8%減少し75.8%となった。生徒の学習ニーズに寄り添った授業形態や指導内容等の改善及び、学習指導要領に則した指導の在り方を模索し実践する必要がある。</p>	
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇基礎学力の定着          ◇基本的生活習慣の向上</p>	
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>①基礎的・基本的な学力・技能の定着を図り、目的意識をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度の育成を目指す。          ②職業人としての規範意識や倫理観を育成する。          ③授業改善の推進に努める。</p>	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>(1) 研究授業とその研究会の実施          (2) 日々の授業を振り返り、分かる授業に向けて研鑽を重ねる。</p>	<p>(1) 職員による情報共有、授業改善          (2) 成績不良者の減少</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<p>・全教科での公開授業、研究授業とその授業研究会の実施          ・授業や校務等へのICT活用</p>	<p>①授業改善に向けて取り組むことができたか。          ②ICT活用は適切であったか。</p>	<p>A B C D          A B C D</p>
<p>12 成果・課題</p> <p>○「授業改善」については、創意工夫ある授業をおこなっており、タブレット端末や学習支援ソフトを活用した授業実践も増えつつある。          ▲今後、タブレット端末が貸与から家庭での購入となった場合のことを考慮すると各教科で授業での活用方法を研究する必要がある。          ▲観点別評価の実施に向けて各教科においてさらに検討・研究が必要である。          ▲生徒・家庭に対し学校も柔軟に対応が求められる。これまで以上に生徒や保護者の教育ニーズの把握に努めるとともに、学校全体で対応することが必要である。</p>	<p>総合評価          A B C D</p>	

13 来年度に向けての改善方策案
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の導入を、教師側と生徒側双方のP D C Aサイクルを回すためのツールとしてとらえ、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるよう取り組む。</li> <li>・教職員のI C T機器の積極的な利用が定着して授業展開に変化も見られている。その取組みから、生徒に何をどのように学ばせ、どのような力を身に付けさせるのかを目標設定し、授業改善に努める。</li> <li>・研究授業の後は、授業担当者、研究授業参加者と教務部とで授業研究会を実施する。</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇生徒支援（生徒指導・教育相談・特別活動）	
4 現状の分析	<b>(A:よくあてはまる B:ややあてはまる)回答の割合</b> ・モラルやマナー、社会規範の指導に努めている 84.5 ・ 73.1 ・いじめや差別を許さず、適切に対応している 81.6 ・ 74.9 ・交通事故や痴漢防止等の安全指導を行っている 88.5 ・ 70.6 ・ボランティア活動の機会を提供している 73.4 ・ 53.9 ・生徒の基本的生活習慣の確立に努めている 82.3 ・ 67.4 ・悩みや相談に適切に対応している 75.4 ・ 56.8	<b>【生徒%・保護者%】</b>
5 学校の抱える課題	◆生徒の基本的生活習慣意識の向上 ◆悩みを抱える生徒への支援	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇安全で安心できる学校環境を形成する。 ◇基本的生活習慣の確立を図る。 ◇教育相談の充実を図る。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒に関する情報共有 (2) 教育相談体制の強化 (3) 基本的生活習慣の定着 (4) 身だしなみ指導の充実 (5) 生徒主体の交通安全・挨拶運動の充実	(1) 各会議からの情報提供 (2) 教育相談・いじめに関する職員研修の実施 (3) 遅刻者数の定点観測と遅刻者への指導 (4) 定期的な身だしなみ指導と日常指導の徹底 (5) 頻繁なMSL活動の実施	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒支援会議を年6回実施したり、職員会議で生徒情報を共有したりすることで、全職員に生徒に関する情報共有を頻繁に行った。</li> <li>・SCによる教育相談研修、学識経験者によりいじめに関する職員研修を行った。</li> <li>・毎朝の校門指導を継続し、遅刻数の推移グラフを毎日更新して、遅刻防止啓発を行った。</li> <li>・定期的に身だしなみ指導を実施し、制服の正しい着こなしへの意識を高めた。</li> </ul>	①生徒の情報が共有され、迅速に対応することができたか ②研修から得た知識や考え方を現場でいかすことができたか ③入社試験や入試の面接で対応できる身だしなみができたか	A B C D A B C D A B C D
12 成果課題	○学年、学科、分掌を問わず、生徒情報を共有する時間を多く設けることができた。生徒の小さな変化も、多数の先生から情報を得て考察し、観察してもらうことで、きめ細かい生徒理解に努めることができた。 ○遅刻数を大幅に減少させることができた。 ○生徒会活動と委員会活動が少しずつ活発になってきた。 ▲身だしなみや日々の生徒指導において、どの先生でも指導ができる意識と体制を構築する必要がある。 ▲教育相談室の在り方について、職員間や生徒にも共通認識が少ない。	総合評価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が、「訴え続ける」、「関わり続ける」、「寄り添い続ける」姿勢を持つことが重要だと考える。何を訴えるのか（適切な身だしなみ、遅刻防止）、どう関わるのか（主体的な活動の支援、是々非々の姿勢で指導すること）、どのように寄り添うのか（教育相談の充実、共感的姿勢）を明確にし、あれもこれもやるのではなく、焦点を全職員で絞って指導する。また指導できる体制を構築する。</li> <li>・多角的な生徒理解に努めるために、保護者と学校が密に連携を図り共通理解を持つこと、生徒と教職員が胸襟を開いて話ができる関係を作ることを大切にする。</li> </ul>	

3	評価する領域・分野	◇進路支援	
4	現状の分析	<p>○進路選択へ向けた取組や行事を外部と連携して行い、企業見学や学校・企業説明会等参加者の評価は高い。</p> <p>○進路希望調査で総合型選抜等の利用を考える生徒の増加など、「入れる進学先」から「入りたい進学先」に意識の変容がみられる。</p> <p>▲基礎学力不足で目標とする進路を実現できなかった生徒もいる。</p> <p>▲進路決定の時期が遅く努力が伴わない。生徒の主体性に課題があり支援が必要。</p>	
5	学校の抱える課題	◇基礎学力強化、生徒の主体的な進路選択と実現	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な進路選択と実現への努力につながる意識の涵養</li> <li>・地域連携や外部団体と連携した進路支援</li> </ul>	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 上級学校の教育方針(3ポリシー)や、企業理念を調べてまとめるワークシート作成		(1) 成果物(進路レポート)とその活用方法、状況・実績等	
(2) 外部団体と連携した企業訪問等の実施		(2) 事後アンケート・自己効力感の変容等	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路レポート作成(調査・報告) インターンシップでのインタビューや企業理念調査、上級学校の教育方針や卒業生状況、通学方法や授業料など、進路先を調査・報告するレポート作成に取り組めた。</li> <li>・企業見学/インターンシップ 各務原市商工振興課連携した企業見学(6月3年就職希望者)、岐阜県産業人材課連携した企業見学(12月1・2年希望者)、インターンシップの実施(55社:1月2年ビジネス・情報科)</li> <li>・進路ガイダンス(大学・企業による体験・説明会) 各務原市商工振興課連携のキャリア教育授業(7月3年)、進学・就職別ガイダンス(5月3年、6月2年)、分野別体験講座(12月1年)、学校・企業説明(12月1・2年生徒・保護者)</li> </ul>		<p>①進路レポート活用状況 全員が調査を担当し、レポートにまとめクラスで公開・活用としたが、活用はクラス差があり、レポート内容も個人差が大きい。</p> <p>②事後アンケート 6月企業見学参加者58名全員が「役に立った」と回答。一方で、希望者を募る企業見学では定員を満たさない。</p> <p>③自己効力感の変容 自信の無さが未知の将来に対する不安や進路に向き合えない要因と考え、自己効力感の変容を分析中である。</p>	<p>A B <b>C</b> D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
12	成果・課題	<p>○進路選択へ向けた取組や行事を意識・意欲面で高めることを念頭に実施することができた。キャリア教育授業や学校・企業説明会等参加者の評価は高い。</p> <p>○情報科を中心にICT活用を基礎学力定着のみにとどめず、発展的な内容も加えたところ、外部から表彰を受けるほどの自主的な取組みがみられた。</p> <p>▲基礎学力不足で目標とする進路を実現できなかった生徒もいる。</p> <p>▲目標設定が低く、問題状況に向きあい解決を目指せない。個別支援が必要。</p>	
13	来年度に向けての改善方策案 進路が多様であるばかりでなく、家庭状況など個別の背景が進路選択に大きく関わる生徒も多い。進路支援部主催の行事を中心とするのではなく、HR担任が進路支援を進める体制を確立し、個別対応を念頭に生徒の自己効力感を高め、主体性を育成する。		

3	評価する領域・分野	◇ビジネス科(学習指導・地域連携)	
4	現状の分析	<p>○卒業時のアンケートによると、本校に入学して良かったと思う生徒93.0%であった。その理由として「専門的な知識や技術が身に付けられた」「専門教科に関する資格が取得できた」の回答が多い。生徒は資格取得を通じて学習活動を充実させることができた。</p>	
5	学校の抱える課題	<p>◇社会で信頼され実りある人生を送るために、商道德を大切にしたい心を養い、ビジネスマナーを身に付けるとともに、コミュニケーションを円滑に図れる人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行う。地域が抱える問題を考察し、解決するための手段を考える力を育成している。</p> <p>◇基礎学力の定着</p> <p>◇高度な専門知識の習得</p>	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科目の基礎基本を定着させることで商業教育の土台をつくり、より高度な専門知識を習得できるよう展開する。</li> <li>・ふるさとを愛し地域に貢献できる人材を育成するために、地域や地元企業などと連携した教育活動を行う。地域等が抱える問題を考察し、解決するための手段を考える力を育成する。</li> </ul>	

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 小テストや成果物の提出状況で生徒の理解度を確認し、学習状況を把握した上で授業を展開する。また、学習した知識や技術を用いる場面を設ける。</p> <p>(2) 課題研究の授業において、地域に貢献できる活動をフィールドの特性や専門性を生かして行う。</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 授業アンケートによる自己評価、検定取得状況、知識・技術の定着を図る指標として検定試験を受検し、その合格率などをもって判断する。</p> <p>(2) 課題研究発表会や報道等において、実践してきた活動を発表し、その発表内容の評価や事後アンケートなどをもって判断する。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>・少人数指導やT Tを活用した授業を展開した。さらに放課後等に個別に補習を行い、生徒の理解度を高めることに努めた。</p> <p>&lt;課題研究 地域連携活動&gt;</p> <p>・フィールドの専門性を生かし、地域と連携した取り組みを行い、活動内容を発表した。</p> <p>&lt;ICT機器の活用&gt;</p> <p>・普段の授業においてデジタル教材を活用した学習指導を行い、資格取得につながるようにした。</p>	<p>10 評価視点</p> <p>①授業アンケートによる自己評価、検定取得状況</p> <p>②課題研究発表会やアンケートにおける評価</p> <p>③ICT機器の活用状況</p>	<p>11 評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
<p>12 成果・課題</p> <p>○教材のアプローチの仕方や動画、視覚的な教材の工夫などICT機器の活用やメタモジやマナバの活用により、学習の充実につながっている。</p> <p>○少人数指導やT Tを活用した授業を展開した。さらに放課後等に個別に補習を行い、生徒の理解度を高めることに努めた結果、全商検定3種目合格者が昨年の1.5倍に、国家試験ITパスポートの合格者や日商リテールマーケティング検定の合格者も倍増した。</p> <p>○3年連続で公立短期大学の合格者を出すことができた。</p> <p>○クラウドファンディングや新商品開発を企業と共同で実施することができた。</p> <p>○フィールドの専門性を生かし、企業などと連携した取り組みを行い、クラウドファンディングや商品開発を行った。</p> <p>○1・2年生対象に進路探究研修を実施した。</p> <p>▲保護者や中学生に本校のことをより深く知ってもらうために、学校として何ができるか、今後さらに検討（各中学校に本校生徒写真入りの資格取得ポスター作成・配付など）していきたい。</p> <p>▲変化する生徒・家庭に対し学校も柔軟に対応が求められる。今まで以上に生徒や保護者の教育ニーズの把握に努めるとともに、学校全体で対応することが必要である。</p> <p>▲基礎学力の向上と早期からの進路の意識付けが課題である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・思考力・判断力・表現力の育成、ICTを活用した授業についてのノウハウを学校全体で共有できるような環境づくりに努める。</p> <p>・授業評価にも引き続き全職員で取り組み、授業改善等により学習意欲を高める。</p> <p>・各分掌、学科の連携を一層密として、HPや学校案内パンフレットなどを通して本校の魅力を伝える。</p> <p>・保護者と連携を図り信頼関係を構築する。そのうえで家庭と学校で生徒の指導にあたる。</p> <p>・生徒の指導にあたっては、生徒情報を共有し組織で対応していく。専門機関等と連携する。</p> <p>・国公立大学や難関私大に一般公募制推薦や総合型選抜で挑戦できる生徒を増やす。生徒自身の可能性を広げられるように、進路指導部や各学科・各学年と協力し、低学年からの意識付けと情報提供にも力を入れる。</p>		

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇情報科（学習指導・地域連携）</p>
<p>4 現状の分析</p>	<p>・近年の生徒のアンケートなどから、情報科で学ぶことができる喜びを感じている生徒が年々増えている。これはカリキュラムを大幅に改変した効果と昨今の社会情勢と連動した先進的な学科の取り組み及び現代の中高生の興味関心のある分野と学びの連携及び仲間づくりを大切にする学科として指導してきた事が主な理由であると分析する。次年度以降も継続して指導を実施していきたい。</p>

5 学校の抱える課題	◇進路支援体制の構築（就職者増加に対応した就職先の新規開拓、様々な分野に対応した4年制大学の進学指導） ◇表面的な規範意識と実態の乖離 ◇3学科における意識の統一（標準化）	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・地域連携による課題解決型学習を題材として、生徒の専門性と学習意欲を高める指導 ・2年生からの専門選択科目における学習指導の充実 ・資格指導（CGクリエイター検定ベーシック、色彩検定、ITパスポート） ・学習指導とつながる進学指導（4年制大学への進学指導）	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 地域と連携した課題解決授業の実施 (2) 生徒の学習意欲向上を目指した実習内容の改変と精選 (3) 資格指導の充実 (4) 個に応じた進路相談及び進路指導の充実 (5) 各種コンクールやコンテストへの応募	(1) 生徒アンケート及び作品成果物評価 (2) 資格取得状況と生徒たちの意識調査及び進学指導での利用率より判断する。 (3) 進学状況結果より判断する。 (4) 作品成果物に対するコンクールやコンテスト結果より判断する。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<b>【問題解決型連携学習】</b> ・調査から問題検討、プレゼンの作成まで考える工程を実践的に学習することができた。 <b>【実習内容の改変】</b> ・生徒のプログラミング意欲向上、メディア作品制作の実践的な授業を実施した。 <b>【資格指導】</b> ・ITパスポートの重点指導を実施 <b>【個に応じた進路指導】</b> ・個別の進路相談から学科職員で連携した面接指導や作品制作指導を実施することができた。 <b>【授業作品成果物の応募】</b> ・県内外の多岐にわたるコンテストについて作品制作を行い、応募を行うことができた。	①生徒が興味関心を持って学習に取り組むことができたか ②外部評価及び資格取得状況 ③学習内容と連携した生徒の目指す進路希望及び進学実績状況 ④外部における作品成果物における評価はどうであったか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成果・課題	○問題解決型地域連携学習では、実践的な学習に加え、生徒の興味関心を強く高めることができた。また、毎年生徒の実態に合わせ実施している実習及び教材は生徒からも学ぶ意欲が向上したとの声を多く聞くことができた。 ○地域と連携した学びとして公益財団法人かかみがはら未来文化財団と連携し、第6回全国エンタメ祭り（ぜんため）に学校ブースとして出展、本校の学びのPRと共に実践的な活動を実施する事ができた。 ○地域産業の担い手育成総合戦略事業の一環として、プログラミング分野において株式会社Kore-nani様と連携し、プログラムを活用した問題解決学習を実施した。また、メディアデザイン分野においては株式会社フジナ様と連携して岐阜県の魅力を発信する情報コンテンツ制作を実施することができた。 ○BYODで導入しているiPadを効果的に活用することができた。本校の情報科の学びには有意義な物であり、親和性も高い。現在では生徒達にとって欠かすことのできない学習ツールとなっている。 ○各種コンクールやコンテストについて <b>【県外】</b> ・厚生労働省主催第5回「年金動画・ポスターコンテスト」のショート動画部門において、年金局長賞を1名、企業年金連合会理事長賞を1名、また佳作にさらに1名と計3名が受賞した。 ・厚生労働省及び公益社団法人エイズ予防財団における令和5年度「世界エイズデーポスターコンクール」において優秀賞及び佳作2点を受賞した。 ・東海北陸ブロック血液センターが主催する「献血ポスターコンペティション」において岐阜県赤十字血液センター所長賞を受賞した。 ・愛知県印刷工業組合主催のポスターグランプリにおいて、特別賞の岐阜県印刷工業組合理事長賞を受賞、他にも4点が入選した。 <b>【県内】</b> ・令和5年度全国高等学校ハンドボール選抜大会のポスター原画に本校生徒が選ばれた。	
		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民生活課主催の食品ロス削減ポスターにおいては優秀賞を2点、奨励賞を1点受賞した。</li> <li>・岐阜県障害者スポーツ協会主催の長良川ふれあいマラソンにおいては3名が受賞した。</li> </ul> <p>このように各種コンクールやコンテストでは目覚ましい成果を上げている。引き続き、次年度も生徒のモチベーションを高める学習指導を進めたい。</p> <p>▲1年生から進学への意識を高めさせ、継続的に将来の進路を意識させることが肝要である。また、学科として組織的に進学指導への取り組みを実施し、情報科としての進学先を確保していきたい。特に今年度の2年生は就職を目指している生徒が複数いるため、情報分野に関する就職先の開拓は喫緊の課題といえる。</p> <p>▲情報科生徒意識レベルの向上に向けた生徒支援体制の強化。数年前の生徒と比較する中で、やるべきことをしっかりとできる生徒が大半であり、学習力及び人間力が向上してきた生徒達が多くなってきている。次のステップとして、これからの社会を生き抜くために必要な正しく強い人間力及び行動力の向上が強く求められ、その生徒支援体制の強化が必要不可欠である。</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した学習活動の充実を図る。かかみがはら未来文化財団及びかかみがはら暮らし委員会と連携しながら、産官学連携を中心とした学びを行い、学校内外での生徒の活躍の場を増やしていきたい。</li> <li>・情報科の未来を見据えた学習内容の強化（A I ・クラウド・メディアデザイン）を継続して実施する。併せて進学指導の強化を図る。</li> </ul>	

3 評価する領域・分野	◇福祉科（学習指導・地域連携）	
4 現状の分析	<p>○昨年度は介護福祉士国家試験に全員合格、保育技術検定も多くの生徒が合格し、資格取得を通じて学習活動を充実させることができた。</p> <p>▲「専門的な知識・技術を身に付けたい」「資格を取得したい」という目標をもって入学する生徒が多い。しかし、高校卒業後の具体的な進路決定の時期が遅く、生徒の主体性に課題があり支援が必要な生徒も多い。</p>	
5 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援が必要な生徒へのサポート体制。情報共有や共通理解を図る時間を確保し、教員等が役割を分担し、生徒や保護者と関わる体制作り</li> <li>・将来の福祉社会を担う介護や保育における専門的な知識・技術を身に付けた生徒の育成</li> </ul>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉教育の土台をつくり、より高度な専門知識を習得し各フィールドの専門的な学習の充実</li> <li>・介護実習、保育実習（事前・事後指導）</li> <li>・資格取得（介護福祉士国家試験、保育技術検定）</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) ICTを活用した効果的な学習環境づくり</p> <p>(2) 地域と連携した体験的な学習（講習会・施設実習）</p> <p>(3) 介護福祉士国家試験、保育技術検定等合格に向けた授業及び補習形態の工夫</p>	<p>(1) 生徒アンケート及び成果物評価</p> <p>(2) 実習後の生徒アンケート及び各機関の評価</p> <p>(3) 介護福祉士国家試験、保育技術検定全員合格</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>【学習内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援システムを活用した授業展開や観点別評価についての検討を行った。</li> </ul> <p>【外部連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習や校外活動を通してフィールドの専門性を高め、実習報告会や保育技術発表会など自己の成長の振り返りを行った。また、報告会を外部施設や他学年で交流した。</li> </ul> <p>【補習の充実】</p>	<p>① I C T 機器の活用状況</p> <p>②外部評価（事業関係者、地域住民等）</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士国家試験に向け、外部模擬試験の復習等を確実にを行った。11月末からは毎日7限目に国家試験対策を分野ごとに実施した。保育技術検定合格に向け、朝や放課後等の時間を使い練習を行った。</li> </ul>	<p>③補習や行事の運営</p>	<p>A <b>B</b> C D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<p>○小中学生との交流や介護現場で働く方と交流できる機会を多く企画することで自信の知識・技術に自信を付け、徐々に主体的に参加し意見交流ができる生徒がいた。また、介護技術コンテストを含め、様々なコンクールにも応募することで様々な分野で活躍できる生徒を発掘した。 (特別支援学校との交流、社会協議会事業、ワールドカフェ、中央図書館読み聞かせ、NHK介護百人一首、紙芝居コンテスト等)</p> <p>○MetaMoJi、manabaを使った教材を使用し、確認テスト等を実施することで効率よく授業展開できた。</p> <p>▲介護福祉士国家試験では受験間際になっても模擬試験の結果が思わしくない生徒がいたため、それらの生徒を対象に特別に補習を行った。</p> <p>▲施設実習や検定に前向きに取り組むことができない生徒への指導方法を検討していく必要がある。</p> <p>▲課題研究を主体的にできない生徒も多く、指導に苦戦した。課題設定や問題提起などの指導側の研究を行う必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>[学科運営]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路決定につながるような講習会や行事の見直し、精選を継続して行っていく。</li> <li>・教育課程、各フィールドの科目の位置づけや実施内容等の見直しを検討する。</li> <li>・福祉科の魅力や地域社会における意義を中学生へ伝え、アピール方法を検討し、福祉科への希望者を確保する。</li> <li>・授業評価について実践を共有し、生徒の実態に合わせた指導と評価に取り組む。</li> <li>・介護総合演習や課題研究を通して、体験的な学習活動だけでなく、探究的な学習活動の指導方法を検討する。</li> </ul> <p>[生徒指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別対応が必要な生徒も多くいるため、生徒の様子等を教員間で共有し連携し対応を行い、引き続き早期対応ができる体制を築きたい。また、同時に授業規律を正し、指導が必要な生徒へはどの教員も厳しく指導していける体制を作り、部活動の顧問と連携し、様々な場面で活躍できる生徒を育成する。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月24日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <p>1 ①教務部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIなど教える側の知識や見識がますます重要になってくる。教員も大変だが、頑張っていたきたい。</li> <li>・「分かりやすい授業ができる」もしくはできるようになる、という部分が先生個人の意欲に委ねられているのは課題かもしれない。学校全体もしくは地域全体で「分かりやすい授業」に向かっていく総合的なデザインが必要なのではないか。</li> <li>・来校した際、来客の通る廊下で先生が生徒を叱っているところに遭遇したが、先生と生徒の壁のようなものを感じてしまった。</li> <li>・「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」の項目が5.8%へったのは何が原因なのか。勉強が一番大切な部分であるので分かりやすい授業運営をしてほしい。</li> <li>・「4現状の分析」の「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」の項目の減少理由を掘り下げて調査をしてはどうか。</li> <li>・生徒のアンケートから評価が下がった内容についてしっかり考察されている。継続して取り組んでいただきたい。</li> <li>・総合評価がCであることは望ましくない。変革期で先生もその対応で大変なのは理解するが、来年度にはBへ上げられるように願う。</li> </ul> <p>②生徒支援部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや差別に対して、しっかり取り組まれており良い。</li> <li>・「多角的な生徒理解」が本当に重要である。生徒自身に目的意識を持たせることが必要なのではないか。</li> </ul>
---

- ・登校時、道路に立っていると、昨年度に比べ挨拶が返って来ず、無言で無表情で通り過ぎる生徒が多いと感じる。また、下校時も何も言わず通り過ぎる生徒が多い。スポーツで好成績を収めている部も多く、将来接客や保育等に関する仕事に就く生徒も多いのに残念である。
- ・「生徒の情報が共有され、迅速に対応できた」の部分がA評価なのが素晴らしい。引き続き頑張っていたきたい。
- ・「4現状分析」の「悩みや相談に適切に対応している」の項目で生徒と保護者の開きが大きい。来年度の課題である。
- ・教員間の情報共有や生徒との関わりがしっかりできているようだ。
- ・多感な時期である。特にいじめやメンタルでの相談には慎重に対応していただきたい。
- ・生徒からの評価は比較的高いが、保護者からの評価が低い傾向である。保護者と情報共有しにくいのか。分析が必要である。

### ③進路支援部

- ・▲のところの支援が大変だが、頑張っていたきたい。
- ・進路の多様性が進む中、生徒自身および保護者を含めた「納得感」を目指してほしい。
- ・当所の会員企業からも、インターンシップを受け入れているとの話を聞くが、生徒の態度が良いと聞く。企業で学べる良い機会なので続けていただきたい。
- ・総合評価が「C」となっているところに少し残念だと感じる。一番重要な部分だと思うため、課題である。
- ・生徒個々の背景があり、難しい部分も多い。引き続き就職に関する情報提供や個人への関わりなどが必要である。
- ・卒業後の進路は、人生を決めると言っても過言ではないので、こちらも総合評価がBになるよう早急な対策をお願いしたい。
- ・学校の特性上基礎学力向上に取り組むことに限界がある。進学希望者は早めに学校授業以外での教材利用など必要だろうか。

### ④ビジネス科

- ・地域や地元企業と連携いただけてありがたい。
- ・学習と実践を通して、引き続き社会とのつながりを深めることから自己効力感を高めてほしい。
- ・クラファンや企業への連携などビジネス科らしい取り組みを積極的にしていて素晴らしい。今後もビジネス科らしい取り組みを積極的にしていただきたい。
- ・日商簿記受験や青年部との交流など会議所との連携も積極的にしていただき感謝している。
- ・息子がビジネス科で、とても意欲的に取り組んでいるところを見て安心している。資格取得も積極的に取り組んでいる。ただ5教科も頑張してほしいというのが本音である。
- ・学習の工夫や地域との関わりなど色々考えて活動していて大変良い。
- ・企業と合同で行う企画は実践的で良い。基礎学力と共に向上させて回数を増やしてもらいたい。

### ⑤情報科

- ・素晴らしい成果を出している。ますますチームワークを大切にしてほしい。
- ・クリエイターとしての力だけでなく、社会に出てバックオフィスを支えられるようなICTリテラシー、スキルも何か指標を定めて目指しても良い。
- ・地域のイベントなどにも積極的に参加したり、様々なコンテストに応募したり、自身の作品を見せる場があるのも生徒のモチベーションに繋がっているのではないかと。情報科の人気は高く、これからもニーズが高まっていくと思うため、岐阜各務野高校を牽引する科として頑張っていたきたい。
- ・更に進化していく分野である。新しいことに挑戦して頑張してほしい。
- ・一流なソフトを使用し学ぶことで、社会に出て即戦力としての期待値が上がる。献血ポスター表彰すばらしい。

### ⑥福祉科

- ・高卒で介護現場ですぐに働くのは難しい。PT・OTや看護師など幅広く進路指導をしてほしい。
- ・引き続き地域との連携、他科連携を深めてほしい。
- ・介護福祉国家試験に全員合格するなど、専門性の高い学びをしていてすばらしい。保育所や介護施設など実務的な場所で学んでいる環境もとてもすばらしい。
- ・積極的に外部への発信や交流をしていて大変良い。
- ・保育技術発表会に招いていただき、雨が降っていない時間に早めにお邪魔したため子どもたちを待たせることになったが、手遊びや紙芝居で楽しませてもらえた。
- ・人形劇では「日吉神社のこまがえる」という話で子どもたちに分かりやすい内容だった。生徒たちの声の抑揚がとても心地よく、見せ方も良かったことで、子どもたちは集中して見ていた。私たちも勉

- 強になった。たくさん練習したのではないか。本当に有り難い。
- ・現場で実習するなど実践的な教育が多く、学校設備も充実している。

## 2 3学科合同企画

- ・救急救命士さんから話を聞く機会をつくるなど良い取り組みをしている。
- ・どんどん進めてほしい。すばらしい。
- ・この企画こそ、岐阜各務野高校にしかできない取り組みですばらしい。生徒の声にあった、福祉科だけで作ることができなかったアニメ制作や・・・という声がすべてを物語っている。相乗効果で新しい発見や学びができる取り組みだと思うので、来年度以降も続けていただきたい。
- ・とてもすばらしい取り組みである。継続して取り組んでほしい。
- ・他科と交流することで学べるものが増える。1年生から取り入れてはどうか。（3年間やることで更に幅広い知識・知見が得られそうである。
- ・11月のイベントで発表を聞かせていただいた。すばらしかった。

## 3 かかみの未来プロジェクト

- ・難しいテーマに取り組んでいる。勉学と部活の両立ができれば、かなり達成できるのではないか。
- ・すばらしい取り組み。こうした総合的なグランドデザインがあれば、全体としてきっと良い方向に進む。応援している。
- ・育成したい資質・能力の3本柱はどれも大切なことである。岐阜各務野高校だから学べること、岐阜各務野高校を卒業して良かったと生徒が思えるように進めていただきたい。
- ・多角的考察からの取り組み。すばらしい。
- ・各学科の専門性だけでなく、育成したい資質・能力が明確であるので良い。介護福祉士の全員合格を願う。

## 4 部活動成績・その他

- ・皆よく頑張っており、教員も指導は大変である。成果が出なかった部も頑張してほしい。
- ・何よりも生徒自身の努力がすばらしい。引き続きご家庭と連携しながら生徒のモチベーションを伸ばすようなサポート体制を整えてほしい。
- ・ホッケー部はもちろんのこと、今年は弓道部も全国優勝し、すばらしい活躍である。高校の部活動でしか学べないこともたくさんある。指導する先生方は大変だと思うが、引き続き頑張ってもらいたい。
- ・皆の活躍がすばらしい。
- ・運動系・文化系共に県内外で活躍しており、誇りに思う。特に弓道部は来年度も楽しみである。
- ・とてもすばらしい成績である。